

第二十五表

燒岳〔硫黃岳〕噴火

(編者ノ調査ニヨル)

年	(西曆)	月 日	時 刻	記 事
明治四十年	(一九〇七) <sup>年</sup>	二月八日	午後二時	飛驒國高山ニテ三分、船津ニテ一分、信濃國南安曇郡ニテ微量ノ降灰アリ。舊噴火孔底ヨリ噴煙セルナランカ。
		二月二日	午前九時乃至十一時	信濃國西筑摩郡奈川、東筑摩郡波多、山形、和田、新、神林、島立、南安曇郡島々、及ビ大野川方面ニ降灰ス。舊噴火孔底ニ新火口ヲ生ズ。
		二月三日	午後三時	噴煙ス、翌朝西筑摩郡ニ降灰アリ。
		三月八日	午後三時	船津ニテ一分、高山ニモ微量ノ降灰アリ。
		七月六日	夜	時々降灰ス。
		二月三日	夜	西筑摩郡奈川村入山、角ヶ平ニ降灰ス。
		一月二〇日	午後七時	山ノ北麓飛驒國中尾、田頃家ニテ強キ鳴動ヲ聞ク、信濃國北安曇郡七貴、陸郷、南安曇郡東穂高、下高井郡山ノ内、夜間瀬、上高井郡綿内、保科井上ノ諸村及ビ須坂町、東筑摩郡坂北村等ニテ午後二時頃ヨリ翌二十一日午前ニ亘リ降灰ス。
		三月二三日	午後十一時	松本ニテ激シキ響アリ、松本市、南安曇郡及岡谷諏訪地方ニ降灰アリ。
		三月三日	午後一時三十分	大ニ噴煙シ、南安曇郡安曇、東西穂高ノ北部、北穂高、有明、豊科、東筑摩郡麻績、坂北、朝日、北安曇郡南小谷、大町、池田町、松川、常盤、更科郡稻荷山町、長野市、須坂町ニ降灰アリ、場所ニヨリテハ灰ノ地

年 (西曆)	月 日	時 刻	記 事
明治四十二年(一九〇九)	三月九日 四月六日 五月七日	午前七時 午前十一時	ニ積ルコト一分ニ及ビ數分間ハ暗黒トナリタリ。 豊科附近ヨリ東筑摩郡川手村一帯ニ微量ノ降灰アリ。 梓村、大野川ニテ鳴動ヲ聞ク、梓、島々、朝日ニ降灰アリ。
明治四十三年(一九一〇)	五月五日 五月六日 六月一日	午後九時 午前六時 午後六時十四分	五月七日頃蝶ヶ岳方面ニ降灰アリ。 船津ニテ鳴動ヲ聞ク、午後十二時頃約一時間降灰ス、翌朝ニ至リ吉城郡上室村、田頃家附近並ニ神川村ニモ降灰セリ。 大鳴動アリ烈シク噴火ス、十時ヨリ十一時マデ大町地方ニ降灰ス。 南北安曇郡、長野市ニ降灰ス。 約十五分間大ニ鳴動ス。飛驒中尾方面ニ降灰夥ダシ更ニ新火口ヲ生ジタリ。
明治四十四年(一九一〇)	二月二日 二月九日	午前五時 午後八時	鳴動シ松本方面ニ降灰アリ。 二十九日夜八時頃ヨリ噴煙シ、三十日午前二時頃及六時頃鳴動ス、梓川ハ一時濁水トナリ、安曇村稻核、島々、大野田、稻荷山町及ビ諏訪郡川岸、湖南、金澤、豊田、平野、長地、湊ノ諸村及ビ上諏訪町、上伊那郡伊那富、中箕輪、川島村ノ各地ニ降灰アリ。白骨、大野川、奈川ニテハ異變ヲ知ラス。
明治四十四年(一九一〇)	五月六日	午前七時半	長ク平穩ナリシ燒岳ハ數日前ヨリ再ビ活動ヲ始メタリ、六日強ク鳴動シテ噴出シ安曇村附近ニ降灰アリ。 強ク爆發シ長野附近マデ降灰ス。

六月三日 午後八時十分

強ク噴出シ、噴口ヨリ黒煙ニ混ジテ火光ヲ發射ス、坂井、上川手、中川手、錦部、本城、本郷、片丘、廣丘、芳川、島内、岡田、松本市、松本村、中山、麻績、中川、三田、小倉、豊科、温、坂城、別所、青木、明盛、高家等ノ諸村ニ降灰ス。上田町ニテハ午後九時三十分ヨリ約一時間降灰ス、長野市ニテモ降灰アリ。

六月四日 午前九時

強ク噴煙セルモ鳴動ナシ、上高地温泉地附近ニ約三十分間少コシク降灰ス。

六月六日 午前零時三十分

強ク爆發シ鳴動アリ、上高地ニテ約二「ミリメートル」ノ降灰アリ。

同 午後二時二十五分

鳴動噴煙ス、上高地ニテ降灰アリ。

六月七日 午後一時四十分

鳴動噴煙ス、島々、坂井、會田、神林、五常、中川手、宗賀、今井、朝日、本郷、里山邊、片丘、廣丘、島立、芳川、島内、松本村、中山、麻績、中川、松本市等ニ降灰ス。

六月三日 午後七時十分

強ク爆發シ、南方ニ降灰ス、平湯ニテハ遠雷ノ如キ鳴響ヲ聞キ午後八時半ヨリ翌日午前二時迄降灰ス。

六月三日  
二日

二十三日夜ヨリ二十四日ニ掛ケ坂井、中川手、會田、筑摩地、鹽尻、片丘芳川、山形、島内、松本村、麻績ノ諸地方ニ降灰ス。二十四日午前六時ニ西筑摩郡王瀧、三岳、開田ノ諸村ニ微量ノ降灰アリ。

七月七日 午後一時四十分

噴煙發火ス、約二十分間繼續ス。

七月八日 午後八時三十分

北安曇郡松川、會染、七貴、陸郷、廣津、八坂、社ノ諸村及ビ池田町ニ降灰ス。

年 (西曆)	月 日	時 刻	記 事
明治四十四年(一九一一年)	七月二〇日	午前十時頃ヨリ 午後零時三十分	坂井、神林、五常、坂北、中川手、上川手、東川手、宗賀、和田、會田、本郷、片丘、生坂、洗馬、安曇、鳥川、有明、東西北穂高村、松川、會染、七貴、陸郷、廣津、八坂、社、島立、芳川、山形、島内、岡田、日向、朝日、松本村、中山、麻績ノ諸村並ニ松本、松代、池田、上田、屋代等ニモ降灰ス、飛驒高山ニテハ午前十時頃強キ爆音ヲ聞ク。
	七月三日	午後六時三十分	午前十時頃大ニ爆發シ山頂北椽ニ於テ深サ一丁、幅一丁、長サ約二丁ナル曲玉形ノ大噴孔ヲ新ニ生成ス、午後六時半豊科ニテ強キ爆音ヲ聞ク。坂井、神林、中川手、壽、宗賀、和田、會田、錦部、里山邊、松本村、今井、朝日、芳川、片丘、廣丘、鹽尻、筑摩地、本郷、島立、島内、岡田、日向、新、麻績、松川、會染、七貴、陸郷、廣津、八坂ノ諸村及ビ松本市池田町ニ降灰ス、東方ハ臼田、小諸、熊谷迄テ微量ノ降灰アリ。
	七月三日		午前十時及ビ午後六時島々ニ降灰ス。
	七月二六日	午後五時三十二分	鳴動、噴煙。
	七月二七日	午前二時四十分	強ク鳴動噴火ス。
	同	午後六時	朝日、筑摩地、松本ニ降灰ス、午後十一時二十分頃五分間鳴動ス。
	七月二八日		梓、安曇ニ降灰ス。
	七月二九日		廣丘、洗馬、鹽尻ニ降灰ス。
	七月三〇日		筑摩地ニ降灰ス。
	七月三日		坂井、神林、中川手、上川手、壽、會田、本郷、里山邊、片丘、島立、芳川、鹽

明治四十五年(一九二二年)

八月八日	午前四時	<p>尻、島内、日向、松本市、麻績、今井ニ降灰ス。          強ク鳴動爆發ス、坂井、神林、中川手、壽、和田、會田、松本市、今井、朝日、本郷、片丘、島立、芳川、山形、上川手、島内、岡田、松本村、中山、麻績、今井、新、梓、温、大和、明盛ニ降灰ス、岩村田ニモ微量ノ降灰アリ。          坂井、五常、中川手、壽、會田、本郷、片丘、廣丘、洗馬、芳川、山形、島内、松本市、麻績、今井ニ降灰ス。</p>
八月三日	午後八時	<p>東筑摩郡壽村、廣丘村(微量)ニテハ午後九時、神林村ニテハ午後十一時(微量)、片丘村ニテハ午後八時ヨリ十二時マデ(多量)ニ降灰アリ、上高地ニモ降灰ス。</p>
二月三日	午後八時乃至九時	<p>東筑摩郡廣丘村、南安曇郡豊科及ビ和田村ニ微量ノ降灰アリ、上高地ニモ降灰ス。</p>
二月八日	午後六時頃	<p>島々谷ニ降灰ス、鹽尻ニ極微量ノ降灰アリ。午後八時ヨリ翌日午前五時マデ洗馬村ニ少量ノ降灰アリ。</p>
二月九日	午後一時	<p>東筑摩郡朝日村ニテハ午後一時乃至二時ニ、洗馬村ニテハ一時乃至四時ニ微量ノ降灰アリ、午後三時三十分ニ筑摩地村ニテ微量、片丘村ニテ稍々多量ノ降灰アリ、上高地ニモ降灰ス。</p>
二月三日	正午頃	<p>午前十一時三十分頃ヨリ正午ニ亘リ波多村ニ降灰ス、水分ヲ含ミテ「ポタ／＼」ト降ル、安曇村ニテハ午後零時四十分頃ヨリ初メ霰ノ如ク雨ヲ混ジテ降り大雨ノ如キ音ヲナセリ。鹽尻ニテハ午後零時三十分ヨリ一時迄降灰ス。平地ニハ微量ナルモ山部ニハ甚シ。午後零時乃至三時</p>

年	(西曆)月 日	時 刻	記 事
<p>明治四十五年(一九二二年)</p>	三月三日	午前十一時頃	<p>ニ上高地、梓村、倭村、廣丘(稍々多量)、神林(同上)、洗馬(少量)、片丘、伊那町附近ニモ降灰ス、松本市ニテハ午後一時頃降灰ス。埼玉縣兒玉郡若泉村、入間郡堀兼村、北足立郡六辻村及ビ千葉縣印旛千葉ノ兩郡、東京市等ニ於テ午後一時ヨリ五時迄ノ間ニ降灰ス。                      上高地ニ降灰ス。                      同前。                      梓村邊ニ降灰ス。                      約五分間鳴動シ、次デ大ニ噴煙ス、午後一時半ヨリ三時迄デ西筑摩郡贄川、木祖邊ニ降灰ス、午後三時頃ヨリ四時半頃マデ伊那町附近ニモ降灰ス。                      噴煙シ午後一時頃上高地ニテ降灰ス、午後二時三十分ヨリ三時迄デ松本ニ極微量ノ降灰アリ。午後一時乃至三時ニ南安曇郡ノ南部及ビ東筑摩郡ニ降灰ス。二十二日ニ鳴動三回アリ、二十三日、二十七日ニモ大ニ噴煙ス。                      午前二時頃ヨリ噴煙甚ダシ、南安曇郡三田、鳥川、豊科ニ降灰ス。                      午前五時三十分ヨリ七時迄デ松本ニ降灰ス。上高地ニテ午後三時頃ニモ降灰ス。                      鳴動アリ山ノ西北側半腹以上ニ二三寸降灰ス、既存噴孔底ノ一部ヨリ噴出セルモノナリキ。</p>
	三月二日	午後一時	
	四月四日	午後三時	
	四月五日		
	四月二日	午後一時	
	五月六日	午前二時	
五月八日			
九月一日			
<p>大正二年(一九一三年)</p>			

大正四年(一九一五)

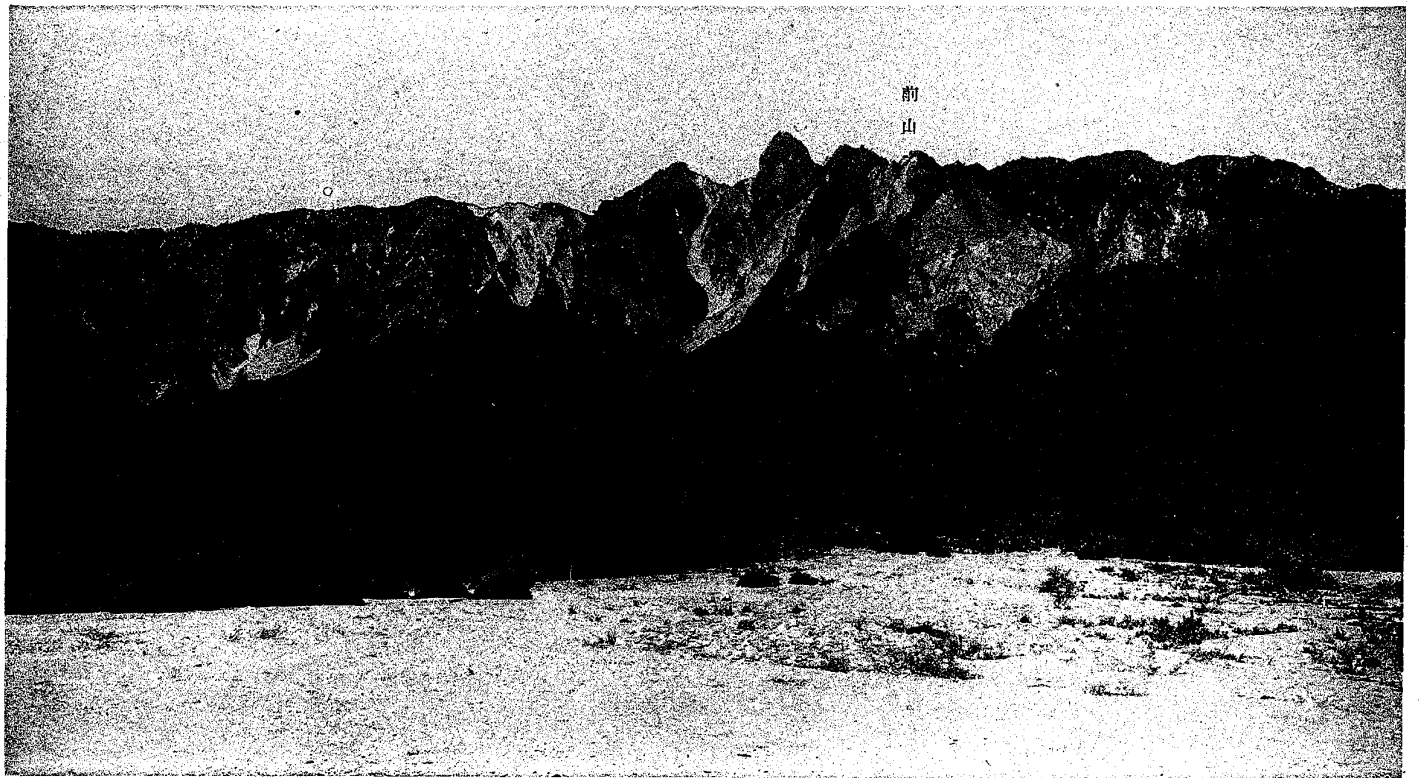
六月六日

午前七時三十五分

從來ノ燒岳破裂ハ其ノ爆發的勢力ガ強カリシニ關セズ格別地震ヲ伴フコト無カリシハ山ノ頂部内外ヨリ噴火シ比較的淺キ個所ニ活動中心ヲ有セル爲ナルベシ、然ルニ今回ノ噴火ニ先キダテハ三十分間内外ノ時ニ亘リ斷ヘズ地震ヲ發シ、就中七時三十三分頃ノ地震ハ頗ル強ク上高地、白骨等ニテハ甚シク家屋ヲ振動シタリ、活動ノ中心ガ深カリシ爲メ先ヅ此ノ強震ヲ發シテ山底ニ裂罅ヲ生ジ破裂ノ準備的經路ヲ出現セルモノナルベク、午前七時三十五分遂ニ破裂トナリシモ爆發ハ割合ニ勢ヒ激烈ナラズ、新噴火孔ハ實際一個ノ大裂罅ニシテ燒岳ノ東側ナル下堀、中堀兩澤ノ中間臺地海面上ノ高サ千九百米、即チ上高地平地ヨリノ高距約四百米ノ邊ヨリ起リ大體一直線ヲ畫シテ西徼北ニ向ヒ一公里ノ長サニ延長シ殆ド山頂東側壁ニ達セリ、此ノ大裂罅ノ深サハ約二十米ニシテ幅百二十米ニ及ブ所アリ底ニ大小數十個ノ火口アリテ全般ニ噴煙セリ、而シテ大裂罅ガ山頂壁ニ接スル個所ニテハ夥多ノ新硫氣孔ヲ生ジ、此等ヨリモ又々從來ノ硫氣孔ヨリモ盛ニ噴煙シ火山活動力ガ全般ニ影響ヲ與ヘタルヲ示セリ」破裂ト同時ニ噴火風起リ首トシテ下堀澤下部ニ沿フテ吹き下ダリ、兩側ノミナラズ出口即チ梓川ノ對岸ニモ衝突シテ樹木ヲ根拔キニシタリ。又々今回ノ噴火ガ山腹ヨリ發セル結果、土石ヲ押し出シテ一種ノ泥流ヲ生ジ中堀下堀兩澤ニ沿フテ約十五町ヲ奔下シテ梓川ニ入りテ水面上約十五尺ノ突堤ヲ築キ一時流水ヲ堰キ止メ忽チ決潰シテ灰土ヲ濃厚ニ混ゼル赤黒キ洪水トナリ下流沿

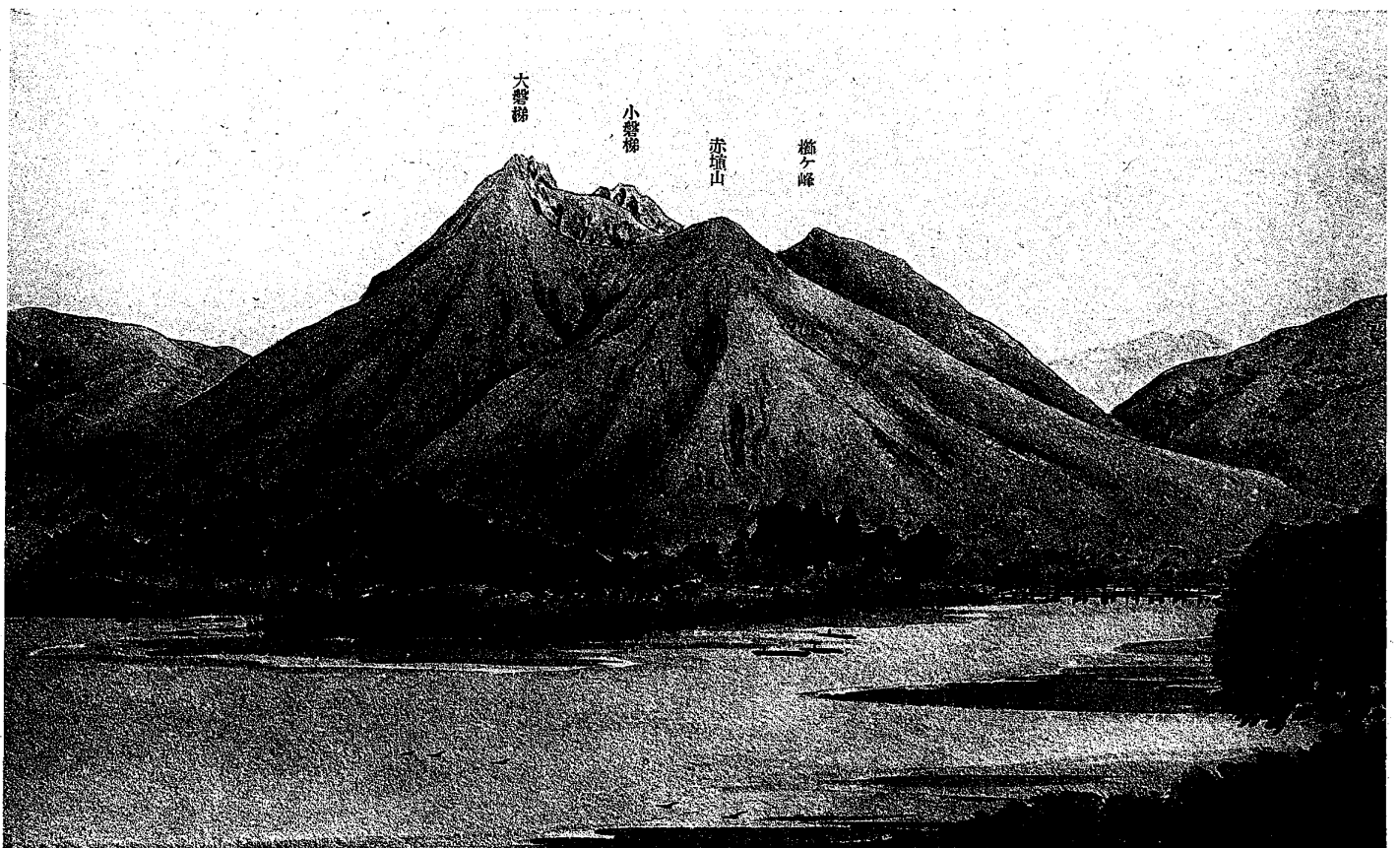
年 (西曆)	月 日	時 刻	記 事
大正 四年(一九一五) 大正 五年(一九一六)	七月 六日 七月 六日 三月、四月	午前 十時 十八分	<p>岸ニ氾濫セリ、燒岳ヨリ水路十里ヲ距ツル島々村ヘハ破裂ヨリ僅ニ二時間以内ヲ經テ既ニ流水ノ到着ヲ見タレバ洪水奔下ノ速度ハ一時間ニ付キ十二三哩ニ達シタルナリキ。上高地附近ノ「大正池」ハ此ノ時ニ生ゼルモノナリ。</p> <p>今回ノ破裂口ハ山頂附近從前ノ爆發火口及ビ西側ノ大硫氣孔ト略ボ一列ヲナスモノニシテ、硫黃岳、燒岳等ヲ連結スル北々東、南々西ノ火山脈走向ニ殆ンド直角ナル破裂線ヲ完成シ、爰ニ愈々近時活動ノ終期ヲ劃スルニ至レリ。</p> <p>前記ノ大裂罅噴口ヨリ小破裂アリ。</p> <p>再ビ破裂シ盛ニ黑白煙ヲ噴出ス。</p> <p>三月十七日乃至二十日、並ニ四月十二日燒岳ヨリ多少ノ降灰アリ又タ附近ニテ爆音ヲ聞キシトノ說アルモ確實ナラズ、實地調査セルニ新噴口ノ成生、舊噴口ノ催破等無ク、唯ダ山頂大噴孔壁東部ガ數十間ニ亘リ沁リ落チタルアリ、爲ニ從來其ノ崖壁ニ存シタル硫氣孔ノ岩塊一部分ヲ崩壞セシメタリ、又山頂孔壁西端ニ於テモ少コシク岩塊ヲ落下セシメタルアリ、蓋シ此等ノ變動ノ結果トシテ稍々多量ニ灰ヲ飛散セシメ或ハ大ナル雪類ノ如クニ音響ヲ生ジタルベキモ素ヨリ噴火的活動ノ現象トハ認ムベキモノニ非ザリキ。</p>





前山

肥前國島原前山ヲ東方ヨリ望ム 第七圖  
 (寛政四年大崩落ノ跡ヲ示ス) 大正四年森攝影



大磐梯

小磐梯

赤壇山

櫛ヶ峰

第八圖 明治二十一年大破裂ノ磐梯山  
 岩代國耶摩郡猪苗代湖北中村松所望 明治二十八年二月三日高島北海氏筆



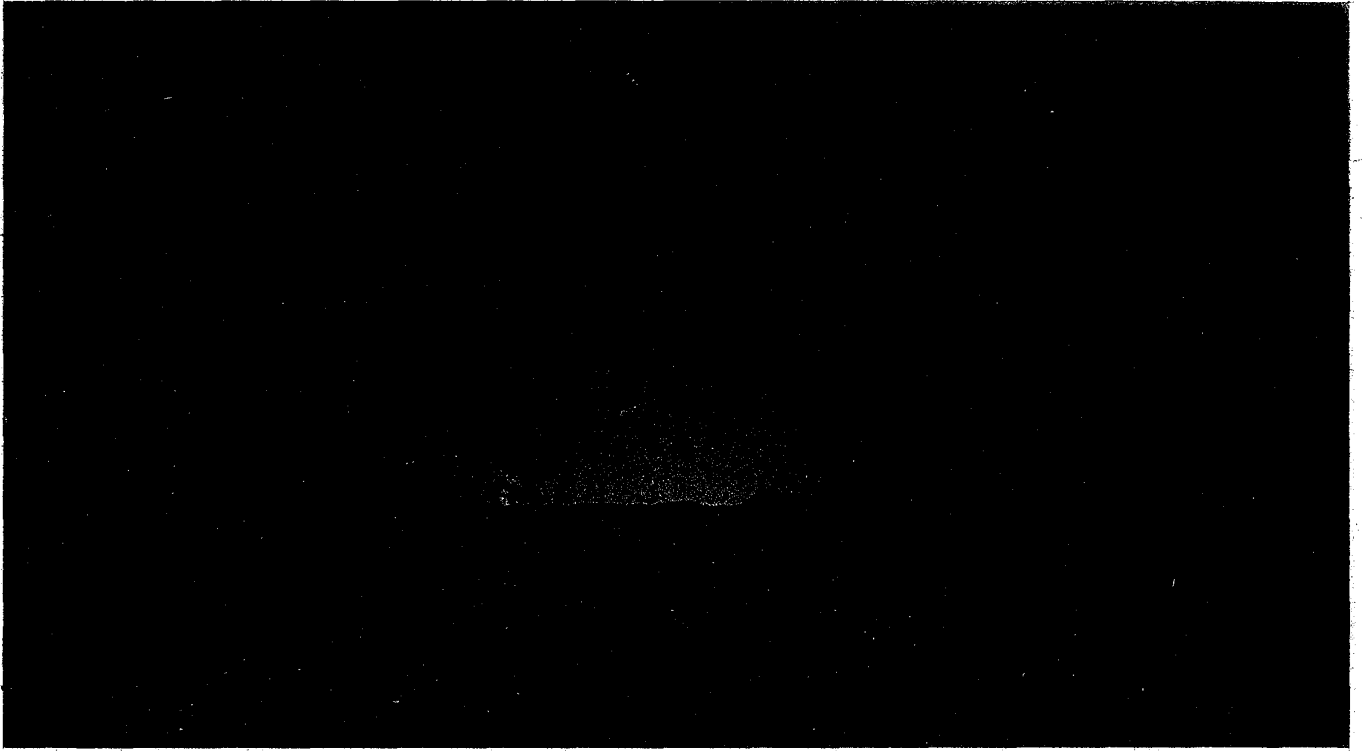
ム望ニ南々西ヲ岳燒リヨ近附地高上 圖九第



(ム瞰リヨ側北) 孔噴大ノ縁北頂山岳燒 圖十第  
リナ孔噴ノ發爆日二十月七年四十四治明

伊豆大島三原山ノ噴火

明治四十五年四月廿七日午後八時半加藤氏撮影



第 十 一 圖 大 島 噴 火 夜 景 (噴 孔 壁 南 西 ヲ 見 リ ル)

大正三年五月十八日午前十一時柳瀨氏撮影



第 二 十 圖 赤 熱 鎔 岩 噴 出 ノ 實 況 (三 原 孔 壁 北 西 側 ヲ 見 リ ル)